

大谷大学短期大学部 自己点検・評価報告書  
2018年度

幼児教育保育科

&lt;自己評定&gt; A

&lt;委員会評定&gt; S

**1. 【2018年度の目標等】**

[目標] 進路・就職支援の充実

学生が自分にあった進路・就職先を意識し選択できる環境を整え、支援を充実させる。

1. 就職を希望する学生に対して就職率 100%を目指した支援を行う。(※就職率：【就職者/希望者】)
2. 公務員を志望する学生に対する支援として公務員試験対策を充実させる。

[達成基準]

行動計画に挙げた内容を実行した結果、就職率 100%に達した場合、目標達成できたものとする。

[行動計画]

1. 学科とキャリアセンターとの連携を密にして学生の進路・就職に向けた支援を行う。
  - ① 2年間を見通したキャリア支援計画として、「進路・就職ガイダンス」(キャリアセンター主催)について、学科の指導や行事との関連において、学生の学びの実情に合ったものとなるよう、日程や内容を検討するとともに学生への周知の徹底を図る。学生が、進路・就職に向けた活動全体の流れを理解し、具体的な行動計画を立てることができるよう、主体的な学び・行動に結びつく支援の方向を目指す。
  - ② キャリアセンターへの相談、指導教員との面談を通して、学生が自分にあった進路・就職先を選択できるよう、キャリアセンターと学科間で情報共有しながらすすめていく。
2. 公務員を志望する学生については早期からの対策に取り組み、意識付けを含め支援していく。
  - ① キャリア支援年間計画の中で模擬試験の実施時期(年2回)として適切な時期を検討する。
  - ② 学生への周知を徹底し、模擬試験および対策講座への積極的な参加を促す。
  - ③ 外部機関と連携した Web による対策講座の受講について検討する。

**2. 【2018年度の達成状況報告】**

目標 1. →行動計画 1.について

- ①就職率(就職内定者/希望者) 100%

キャリアセンターによる求人情報の提供や学科による助言指導を含めて支援を続けた結果、就職率 100%となった。

- ②月1回(5/25、6/22、7/27、9/21、10/26、11/23、12/21、1/25、2/25) キャリアセンターとのミーティングを前年同様、下記の内容で行った。

(ア) 進路就職ガイダンスについて(日程・内容の検討、事後の振り返り 等)

(イ) 学生の就職活動状況について(情報共有)

(ウ) 公務員試験対策について(模試日程の検討、面接指導 等)

(エ) その他 就職園への採用御礼訪問、就職説明会への参加(幼稚園、保育所)、

「幼稚園教諭の魅力発見」(\*1)「保育士の魅力発見」(\*2)の開催

\*1 京都市私立幼稚園協会との連携 \*2 京都市保育園連盟との連携

目標 2. →行動計画 2.について

公立正職員合格率(合格者/受験者) 33.3%(2/28 現在)

嘱託等の任期付き職員を含めると 66.7%

※公務員（正職員）受験者は 3 名で、その内、1 次試験に合格した者は 2 名であった。最終試験に合格した者は 1 名、他 1 名は嘱託職員として採用された。1 次試験に不合格であった残り 1 名は、私立の保育園で正職員として採用された。

①模擬試験の実施時期については、2 回生対象に 5/12 に実施 1 回生対象に 12/22 に実施

②模擬試験の受験者数は、5/12（2 回生対象）7 名、12/22（1 回生対象）11 名

③外部機関と連携した対策講座は検討したが、内容が難しく効果が薄いと判断し実施しなかった

### 3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

目標 1. →行動計画 1.について

①前年同様、学科行事授業との関連を考慮し、掲示や呼びかけにより学生への周知を行った結果、第 2 学年では安定した出席者数を得られた。

\*第 1 学年(前期 73 名、後期 70 名) \*第 2 学年(69 名)

第 1 回目 (4/19) 75.3%

第 1 回目 (4/11) 98.6%

第 2 回目 (11/24) 90%

第 2 回目 (5/9) 97.1%

第 3 回目 (12/22) 92%

第 3 回目 (5/16、5/22 どちらかに出席) 97.1%

第 4 回目 (1/25) 68.6%

第 4 回目 (7/4) 98.6%

第 5 回目 (7/11) 88.4%

\*なお、第 2 学年の 5 回目は、8 月に行われる保育実習（施設）の事前オリエンテーションと重なっている学生がいるため、他の回と比較し、出席率が低くなっている。欠席者については、後日個別に指導した。こうした取り組みにより、学生が具体的な行動計画を立てることができ、学生のキャリアセンターへの来課が増えた。

②学生指導に関して、キャリアセンターと学科の指導の間で齟齬のないように、ミーティングの際だけでなく、こまめに確認しあうことで、学生指導の内容の共有、その後の対応の確認を早い段階で行うことができた。

目標 2. →行動計画 2.について

1 次試験合格者に対しては、最終面接まで助言・指導を行うことで正職員としての合格につながった。また、他 1 名に関しては、非常勤採用ではあったが、公務員を目指して、モチベーションを維持できるよう、助言を行い嘱託職員としての採用となった。

[改善すべき事項]

目標 1 に関して

改善点：第 1 学年では従来と比べてガイダンスへの出席率が低く、改善が必要である。

- 1) ガイダンスへの出席率を上げるため、従来以上に学生への周知の徹底が必要である。特に、現第 1 学年は出席率が従来よりも低くなっているため、キャリアセンターと学科との連携を密にしていく。
- 2) また、ガイダンスに出席していても、話が浸透していない学生も（少数ではあるが）いるため、来年度はゼミの時間等を利用し、学生と教員、キャリア担当者が、少数で、やり取りできるような時間を設定する。このことで、学生がキャリアセンターを利用しやすくなり、相談が増えることが期待される。

### 4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

**<相互評価担当者使用欄>**

**<所見>**

【2018年度の目標等】からは、目標に対して適切な行動計画が立てられていること、【2018年度の達成状況報告】からは、行動計画に基づいた活動が着実に行われたこと、を確認することができた。学科とキャリアセンターの連携を密にして取り組んだ結果、就職希望者就職率 100%という成果を得た。第一学年のガイダンス出席率が課題として残るが、「進路就職支援の充実」という目標の達成度は極めて高いといえる。このため、自己評価はAであるが、評価をSとした。

＜自己評定＞ B	＜委員会評定＞ B
<b>1. 【2018年度の目標等】</b>	
[目標]	
科目間の連携を密にして授業の充実を図る	
[達成基準]	
科目間の教材や授業テーマの関係表の作成をもって完了とする	
[行動計画]	
原則として、年度当初の学科会議において各科目担当者による情報提供と協議を実施し、教材や授業テーマの関係表を作成し、各担当者が情報を共有する。	
<b>2. 【2018年度の達成状況報告】</b>	
第2回の学科会議において、授業テーマ（内容・教材等を含む）の関係を示す図を配布し、補足や質問、意見を出し合い、学科全体のカリキュラムの状況を共有することにつとめた。討議を学科議事録（根拠資料③）にまとめるとともに、配布した図を「カリキュラム関係図」（根拠資料①②）として整理した。	
<b>3. 【点検・評価】</b>	
[効果が上がっている事項]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の教員には、学科のカリキュラムの全体像を把握してもらうことができた。</li> <li>・ともすると蝸壺状態に陥りがちな各自の担当科目が、全体の中でどのような位置にあるかを確認できたとともに、他の科目のテーマや教材などの状況が把握できた</li> <li>・「保育内容総論」と「保育実習指導」の2科目間で、指導案の書き方など共通する部分は、それぞれの科目での分担を分けることで効率化ができ、従来よりも丁寧な学修につなげることや、「図画工作」の授業では、子どもの発達と造形活動とを関わらせた内容を展開でき、より実践的な学修ができたことなど、一定の成果があった。</li> </ul>	
[改善すべき事項]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議での議論をふまえて、何がどのように各自の授業に有効であったかの検証が十分とはいえない。</li> <li>・学外からの非常勤講師との連携ができていなかったこと。</li> </ul>	
<b>4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</b>	
根拠資料①→カリキュラム関係図1	
根拠資料②→カリキュラム関係図2	
根拠資料③→第2回学科会議議事録	

**<相互評価担当者使用欄>**

**<所見>**

【2018年度の目標等】からは、目標に対して適切な行動計画が立てられていること、【2018年度の達成状況報告】からは、行動計画に基づいた活動が実施され、一定の成果を上げたこと、を確認することができた。改善点として「学外からの非常勤講師との連携ができていなかった」点が指摘されており、自ら達成状況を適切に把握できている。このため、自己評定と同じく評定をBとした。

<自己評定> A	<委員会評定> S
<b>1. 【2018年度の目標等】</b>	
[目標]	
<p>これまでの実績をさらに継続・発展させていく。</p> <p>1. 地域の子育て支援活動へ継続的に取り組み、さらに拡充し、京都市・北区と連携し拠点化を図る。</p> <p>2. 地域貢献と同時に、研究及び学びの場としての役割を明確にする。</p>	
[達成基準]	
<p>1. 地域の子育て支援活動へ継続的に取り組む。</p> <p>① 「はぐくみ広場」(名称変更 2017年度まで「すくすく赤ちゃん広場」)の継続実施。</p> <p>② 紫明学区での子育て支援活動を継続・発展。</p> <p>③ 北区内での様々な子育て支援活動を継続・発展。</p> <p>2. リレー講座の試行及び修正を行う。</p>	
[行動計画]	
<p>1. ① 「はぐくみ広場」(2018年度より名称変更)を継続する。(2018年度も10月実施予定)</p> <p>② 北区内における子育て支援活動拡充のため、拠点化を推進する。</p> <p>2. ① 子育て支援及び教育・研究の場としての施設・設備について、具体化へむけた整備を実施する。</p> <p>② 大谷幼稚園でのリレー講座は継続する。実習園でも実施できるか働きかけてみる。</p>	
<b>2. 【2018年度の達成状況報告】</b>	
<p>目標1. →行動計画1.について</p> <p>① 「つながるフェスタ・はぐくみ広場」(2017年度「すくすく赤ちゃん広場」)を10月20日(土)午前10時～11時30分で実施した。</p> <p>参加者120人 [内訳：赤ちゃん(49人)・母親(48人)・(父親19人)・兄弟(4人)] スタッフ123人</p> <p>[内訳：児童館・保育園・幼稚園(25人)・北区主任児童委員・民生児童委員(29人) 北区社会福祉協議会(1人)・栄養士(1人)・健康長寿(1人) 北区子どもはぐくみ室(5人)(保健師2人含む) 大谷大学短期大学部幼児教育科学生(60人)・大谷大学短期大学部教員(1人)</p> <p>総勢243人と大盛況であった。</p> <p>②-1.北区と連携して、「あかちゃんにこちゃんサロン(14回目から16回目*昨年度は11回目から13回目が実施された)」を3回実施した。</p> <p>*紫明学区の子育てサロンとして、これまで大変好評だったことから、本年度も継続して3回中2回が大谷大学を会場に実施された。</p> <p>*以下、内容確認</p> <p>第14回 8月10日(金)：紫明幼稚園にて午前10：15から11：30 わらべ歌・手遊び、ベビーマッサージ、水遊び・プール遊び、絵本の読み聞かせ等を実施。</p>	

8組 28人の親子が参加され、スタッフとして学生3人教員3人が関わった。

第15回 12月9日(水):大谷大学2号館2001教室にて午前10:00から11:30

わらべ歌・手遊び・つながり遊び、ボールプールやままごと遊び、工作コーナー(水のりを使ったボトルワーク)等を実施。13組 26人の親子が参加され、スタッフとして学生8人教員1人が関わった。

第16回 3月6日(水):大谷大学4号館1階 多目的室にて午前10:00から11:30

わらべ歌・手遊び、絵本等 (実施予定)

\*昨年に引き続き、大谷大学は交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された空間であることから大変好評であり、和やかな雰囲気楽しんでいただけた。特に、2001教室では、ボールプールやままごと、乳児のおもちゃがそろっている環境で、子どもたちは熱中して遊び、保護者同士の関係づくりもでき、安心した楽しい時間を過ごしていただけた。

\*北区から今後もさらに引き続き連携の要望が出ている。

②-2.北区内における子育て支援活動の充実として、昨年度に引き続き本年度も、京都市保育課主管の子育て支援事業である『地域子育て支援拠点事業 子育て教室 赤ちゃんの「いないいないばあ」教室(0歳児教室)』を本学において開催してほしいとの強い要望により、2クール(6回/1クール)の12回を実施した。

1クールの内容は、①自己紹介、赤ちゃんのおもちゃ作り ②離乳食についての話 ③離乳食の味見会(楽只保育所乳児棟にて) ④0歳児担任との話(楽只保育所乳児棟にて) ⑤赤ちゃんの言葉について ⑥ほっこり子育て広場(テーマ:いつくしむ~子どもも私もかけがえのない存在~)であり、この内容を2クール実施した。

また、昨年度まで赤ちゃん教室とは別日に実施していた特別講座を、大変好評により本年度からクール内5回目まで登録者以外にも案内をして公開講座として実施することにした。

実施日は次の通りである。

- ・第一クール:①5月28日(月)(参加親子9組)②6月4日(月)(参加親子8組)  
③6月18日(月)(参加親子6組)④6月25日(月)(参加親子8組)  
⑤7月2日(月)(参加親子6組+特別 講座参加親6世帯14人)  
⑥7月9日(月)(参加親子9組)

- ・第二クール:①10月22日(月)(参加親子7組)②10月29日(月)参加親子7組)  
③11月5日(月)(参加親子8組)④11月12日(月)(参加親子10組)  
⑤11月26日(月)参加親子10組)⑥12月3日(月)(参加親子8組)

\*本年度も京都市北区で行われた子育て支援事業は、北区と大谷大学との包括協定に基づき、「覚書」を交わし、展開している。その理由としては、学生ボランティア活動をより安心して行うことができ、且つ円滑に推進するためである。と同時に、北区における子育て支援事業の拠点として大谷大学の位置づけを明確にした。

\*本年度の「いないいないばあ教室」の取り組みでは、大谷大学短期大学部幼児教育保育科の学生の中から「子育て支援チーム:富岡ゼミ・下道ゼミ・小川晴美ゼミ」で1クール目を担当し、展開した。2クール目はボランティアチーム(11人)を組み、広く学生が関わった。学生が行う各回の具体的な取り組みとして、教室の最後につながり遊び・ふれあい遊びやゲームなどを親子に提供する。そして、教室終了後、ふりかえりも兼ねて手作りの「壁新聞」を作成した。

この取り組みは手作りのあたたかさや、学生自身と子どもとの関わりの姿を保護者に伝えるツールとなった。教室終了後作成し、次回教室で掲示をした。都合で休んでいた保護者も前回の様子が見られ、参加していた保護者はわが子の様子が見られるものとなった。保護者からは、毎回好評であり、この「壁新聞」がほしいと希望される保護者が多かった。学生自身も「手作り」のよさを実感し、就職後の実践の場での「園だより」や「子どもの姿」を保護者に伝える有効なものであると考えている。

また、地域貢献連携室主催の地域連携プロジェクト発表会にて、学生3名が子育て支援活動について発表した際も「壁新聞」の手作り感が好評を得た。その後「響流館」ロビーにて展示された。

\*近隣保育園との連携強化: 本学が日頃より保育実習や就職でお世話になっている近隣の上総幼稚園より大学との連携強化をしたい旨、申し入れがあった。本学科としても、日頃から乳幼児に関わり、乳幼児の遊びや成長・発達の具体的な姿に学生たちが関わることの有効性を考え実現し実践している。この申し入れの背景には、大学キャンパスは乳幼児にとって「面白さ・不思議さ」等を発見する「学びの広場」としての魅力があるからである。このことから学内関係部署にご調整をお願いし、本学と上総幼稚園との「覚書」を締結し実施することができた。実施日は次の通りである。

5月15日 10:15~10:45 (3歳児 19人 保育士 2人)

6月26日 10:10~10:45 (2歳児 18人 保育士 3人)

7月11日 10:10~10:30 (3歳児 19人 保育士 2人)

7月17日 10:00~10:30 (1歳児 15人 保育士 4人)

近隣の園(紫明幼稚園、のぞみ保育園、ののはな保育園等)で連携を検討中である。

## 目標 2. →行動計画 2.について

①施設設備については、さらに充実させるために京都市の「学まち連携大学」促進事業を活用しながら、乳幼児関係の備品など必要なものを、適宜整備する計画であり、魅力的な子育て支援環境づくりを進める。

## ②大谷幼稚園のリレー講座の実施及び行事参加

### ・大谷幼稚園での本学教員による「年長児の課外活動」

昨年度より、本学教員による「年長児の課外活動」を実施している。2018年度は本学教員のほか、外部から講師を招き、2か月連続講座となる特別課外活動として開催された。本取り組みは、本学科教員の専門性を大学附属大谷幼稚園での保育実践に還元する意味合いがあると考えている。今年度に関しては、小川健一、岡村明日香の2名の教員がそれぞれ専門分野で担当した。

科学遊び教室「リトルキッズ サイエンス」: 小川健一 月2回 金曜日 14:30~15:30

音楽教室「おんがくって楽しいな」: 岡村明日香 月2回 金曜日 14:30~15:30

### ・藤棚祭りへの参加

2018年8月31日(金) 10:00から12:00 主催: 大谷幼稚園保護者会

参加者 幼稚園: 園児140人 教員19人 保護者約60人

大谷大学短期大学部幼児教育保育科: 1年生学生67人 学科教員5人

## 3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

目標 1. →行動計画 1.について

「はぐくみ広場」(昨年までは「すくすくあかちゃん広場」)、「赤ちゃんにこちゃんサロン」、「いないいないばあ教室」の継続的な実施を通して、高い評価と信頼関係を築き続けてきた。その結果として、本学は、北区内での子育て支援事業において、確固とした位置づけを獲得し続けている。京都市そして北区から来年度も継続実施の要望が来ており、本年度も着実に高い評価と信頼関係を深めることができたと考える。今後も着実に、そして来校された保護者の方々からも高い評価と信頼をいただけるよう、内容の充実と良好な環境として施設を提供すべく、整備と改善を積極的に進めていくことが重要である。昨年度までの「すくすくあかちゃん広場」(第一子に限定)をさらに充実させる「はぐくみ広場」(兄弟がいても参加可)となった。この「はぐくみ広場」は、「つながるフェスタ」(親子コンサートと一緒に開催)として、開催方法、場所については今後検討していく。

目標 2. →行動計画 2.について

各子育て支援事業を、保護者の視点から見た保育者の役割について、今年度も年度末のレポートでほとんどの学生が「はぐくみ広場」から学んだ意義について記述されており、この経験を通して学生たちにとって大きな学習効果が見られたことが分かった。

また、大谷大学附属幼稚園である大谷幼稚園との連携強化の一環として「藤棚祭り」への参加もあり、幼稚園のイベントの雰囲気も経験することができた。実習生とは違う立場で園児たちと接することは、学生にとって、子どもたちとの多様な関係のつくり方を学ぶよい機会になった。

近隣の上総幼稚園との連携事業を4回実施することができた。この事業の取り組みにより、学生が実習以外で乳幼児の遊びや成長・発達の具体的な姿を日頃から、しかもキャンパス内にいながらにして触れることが可能となった。この環境を学生自身の専門性を具体的なものとし、また保育者マインドを高める機会として活用していきたい。

さらに目標1・2を強化充実させるために、「学まち連携大学」促進事業と連動しながら学内事業としての整備と、公的な地域貢献事業としての整備の両面を着実に進めている。

[改善すべき事項]

- ・目標1については、さらに充実・発展させていく。
- ・目標2については、「学まち連携大学」促進事業などの予算を活用しながら、学内施設状況を考慮して、効果的に整備していくこととする。また、本学附属大谷幼稚園と連携を密にしながら、内容を充実させていく。
- ・学生が子育てボランティア等、積極的に地域と繋がる機会、さらに様々な機関と繋がる機会を提供したいと考え、学科としてどのような援助ができるかを検討していきたい。
- ・現在、地域貢献事業が着実に成果を上げた結果として、プロジェクト数の増加と内容が多岐に渡っている。そのため今後は、プロジェクト毎の深化充実を如何に実現していくかが課題である。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

「いないいないばあ」教室スケジュール、公開講座チラシ、壁新聞コピー

「あかちゃんにこちゃんサロン」チラシ、報告

「はぐくみ広場」ポスター、学生アンケートよりまとめ

「大谷幼稚園特別課外活動」資料

<相互評価担当者使用欄>

### <所見>

【2018年度の目標等】からは、目標に対して適切な行動計画が立てられていること、【2018年度の達成状況報告】からは、行動計画に基づいた活動が着実に行われたこと、を確認することができた。第一の目標(地域の子育て支援活動を拡充するため北区における拠点化を推進し、さらに継続発展させる)については、活動状況からみて達成度が極めて高い。第二の目標(地域貢献と同時に、研究および学びの場としての役割を明確にする)については、大谷幼稚園との連携や「はぐくみ広場」の学習効果など、目標がほぼ達成されている。したがって、自己評定Aであるが、評定をSとした。